

琉球大学病院 放射線科の西江昭弘と申します。昨年に引き続き2回目の編集後記を担当させていただきます。私はコロナ禍に沖縄へ赴任しましたが、最近はずいぶん色々な場所に出かけられるようになってきました。一方で内地への出張も増えているため、週末は不在のことも多く、沖縄県の魅力を満喫するのはまだまだこれからだと感じています。広報委員会に参加させていただいているおかげで、沖縄県医師会の活動も肌で感じられるようになりましたし、委員の先生方の“世間話”が自分にとって新鮮な情報のことも多く、県全体の医療について勉強できる場として貴重な機会と捉えています。

本題になりますが、2024年6月の沖縄県医師会報の表紙は、きなクリニック 喜納美津男先生が撮影された紫陽花の写真になります。花の上に現れる一匹の小さな蛙がカラフルなインパクトを与えています。

女性医師部会 副部会長の知花なおみ先生から第17回沖縄県医師会ドクターズフォーラムのご報告がありました。沖縄県における健診の状況に関して詳しくまとめられています。知花先生も記事に書かれていますが、私も「健診」と「検診」の違いを理解していませんでしたので、スッキリした次第です。

次に理事の白井和美先生より、第48回沖縄県学校保健・学校医大会のご報告がありました。今一度確認したい「学校検尿の重要性」がテーマとなっており、琉球大学病院 中西浩一先生の記事でも、沖縄県の小学校、中学校の三次検尿未受検率が九州・沖縄地区で最も高く、こういう未受検者の中に将来的に末期腎不全へ進行する症例が含まれる可能性が警鐘されています。受検率の向上が重要であることを認識しました。

それから常任理事の稲田隆司先生から第226回沖縄県医師会臨時時代議員会の報告がなされました。令和6年度の沖縄県医師会事業計画として「65歳未満健康・死亡率改善プロジェクト」、「働き方改革による地域医療への影響の最小化」、「地域包括ケアシステムの深化」、「おきなわ津梁ネットワークへの参加促進」などが挙げられています。

沖縄県医師会 システム担当理事の比嘉 靖先生からは令和5年度日本医師会医療情報協議会の報告がなされました。「医療DX」、「地域医療情報連携ネットワーク」、「オンライン診療・遠隔診療」がサブテーマとなっており、優秀なシステムを実際の医療現場で使いこなせていない現状が懸念されるとの内容でした。

さらに理事の涌波淳子先生から第22回都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会のご報告がありました。医療、介護、障がい福祉の3つが同時に改定となった診療報酬を中心に、現在の介護の問題点と今後の展望についてわかりやすくまとめられています。

理事の白井和美先生からは第155回日本医師会臨時時代議員会の報告がありました。能登半島地震におけるJMAT関連の報告や生活習慣病に係る医学管理料の見直しについての議論が記載されています。紙カルテを使用しながらでも医療DXは推進できるという長島常任理事のご発言が非常に印象的でした。

また、生涯教育コーナーでは、琉球大学病院 精神科神経科の普天間国博先生より、睡眠障害が心身に与える影響についてレクチャーがありました。睡眠障害に関する詳細な説明がされていますが、自分自身の経験も回顧しながら読ませていただき、大変勉強になりました。

インタビューコーナーでは、広報委員の玉井 修先生が沖縄県薬剤師会会長 前濱朋子先生にお話を伺っています。コロナ禍での診療、薬学部設立、薬物乱用の問題など、幅広い内容が盛り込まれています。

月間行事のお知らせとして、琉球大学病院 歯科口腔外科の中村博幸先生より、「歯と口の健康週間に寄せて」が寄稿されました。沖縄県の高い虫歯有病率の他、手術前後やがん治療前後の歯科の役割、在宅歯科医療の現状、口腔の検討と誤嚥性肺炎・認知症との関連など、わかりやすい解説がありました。さらに沖縄協同病院 リエンゾンセンターの小松知己先生より、「依存症」についてレクチャーがありました。睡眠薬、抗不安薬、市販薬などの薬剤やアルコールなど、原因は幅広い内容です。全く知らなかったのですが、ハームリダクションという考え方があり、厚生労働省もその方向性への舵切りを考慮していることが理解できました。

以上、2024年6月の沖縄県医師会報をダイジェストでお伝えしました。いずれも改めて考えさせられる内容が多く、大変勉強になりました。琉球大学病院は移転を控えた時期になっており、地域連携という観点からはこれまでと少し異なる構図になることも想定されますが、引き続き地域医療に貢献すべく努力して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

広報委員 西江 昭弘